ラディアン周辺行政機能等集約基本設計業務

(概要版)

令和6年6月

安井建築設計事務所

■ラディアン周辺における施設概要

【設計の背景】

「新庁舎・駅周辺公共施設再編計画」(令和４年２月策定)をベースに、生涯学習センターラディアン周辺へ、行政機能を集約するとともに、町民にとって居心地の良い場所となる拠点づくりを目的に次の３つの基本設計を実施しました。それぞれの施設整備だけでなく、各施設の機能やあり方を検討し、連携性を高めるとともに一体的な機能向上を図ります。

【各施設の設計概要】

【１】役場庁舎建設の基本設計

災害対策拠点となる庁舎としての耐震性が不足しており、建設から46年が経過し老朽化が著しいため、二宮町役場庁舎の移転、建替えを実施します。

敷地の所在	二宮町二宮 1199-1
用途地域	第１種住居地域
防火地域	準防火地域
敷地面積	約10,000㎡
建ぺい率	60%
容積率	200%

北棟（本庁舎機能、災害対策本部機能）

施設用途	執務室、議場、会議室、防災倉庫ほか
施設の延べ面積	3,650㎡
主要構造	鉄筋コンクリート造、地上３階

南棟（こども家庭センター、教育委員会）

施設用途	執務室、会議室、多目的室、教育支援室ほか
施設の延べ面積	957㎡
主要構造	軽量鉄骨造、地上２階

【２】生涯学習センターリニューアル（改修）の基本設計

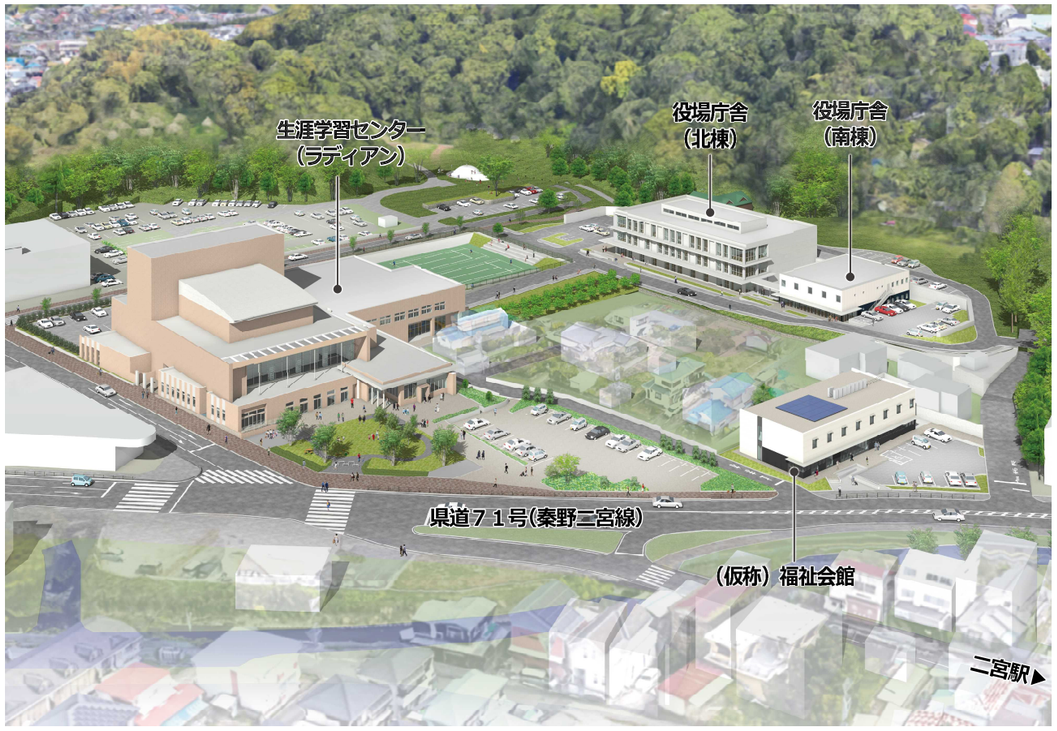
築２４年が経過し、屋根や外壁の補修、空調機器の更新、天井の耐震化(特定天井対策)を計画する中、新庁舎建設とともに施設の連携性、滞在性を高め、交流が生まれる居心地の良い場所となるよう、リニューアル(改修)を行います。

施設の所在	二宮町二宮1240－10
用途地域	第１種住居地域
防火地域	準防火地域
敷地面積	9,545.11㎡
建ぺい率	60%
容積率	200%
施設用途	多目的ホール、会議室、展示ギャラリー、図書館
施設の延べ面積	5,284.57㎡(公民館棟3,395.43㎡、図書館棟1,889.14㎡)
しゅん工年	平成12(2000)年７月３１日
主要構造	鉄骨・鉄筋コンクリート造、地上3階地下1階

【３】（仮称）福祉会館建設の基本設計

保健センターの一部機能移転や町民活動発展の拠点、社会福祉協議会と行政の福祉サービスをつなぐ連携の場とするため、旧ホテル跡地を活用した施設を建設します。

施設の所在	二宮町二宮 1208- 1
用途地域	第１種住居地域
防火地域	準防火地域
敷地面積	約1,320㎡
建ぺい率	60%
容積率	200%
施設用途	会議室、調理室、相談室、ラウンジ
施設の延べ面積	915㎡
主要構造	軽量鉄骨造、地上２階



ラディアン周辺は、二宮駅から約７００mの徒歩圏内で、町内の各方面からバスを利用して訪れることができます。主要地方道県道７１号(秦野二宮線)に接しており、自転車や自動車によるアクセス性も高く、両側歩道付きの平坦な道路であることから、高齢者や子ども連れの歩行者の利便性や安全性も確保されています。また、県道が緊急輸送道路でもあることから災害時の応援や物資受け入れについても対応しやすい立地であり、公共施設が集約されることで災害時等においても連携性が高い場所になります。

■ラディアン周辺地区における交通および駐車場計画

ラディアン周辺地区の交通計画について

・敷地周辺の道路整備を行い、歩車分離された安全な外構計画とします。

・ラディアン周辺地区に施設が集約されるため、交通動線を整理します。

・調整池外周を周回できるようにすることで、円滑な交通形態とします。

・新庁舎への車両動線は北側からに限定し、(仮称)福祉会館側からの車両の出入りは、緊急時のみとします。

・生涯学習センターラディアンと新庁舎を結ぶ道路の整備を行い、歩行しやすい空間とします。また、新庁舎に歩行者を受け止める共用部を設けることで、ラディアンモールの拡張を目指し、周辺施設とつながる計画とします。

※ラディアン地区全体に施設集約されることで交通量の増加が懸念されましたが、計画時の交通シミュレーション調査により問題ないことが確認されています。

駐車場について

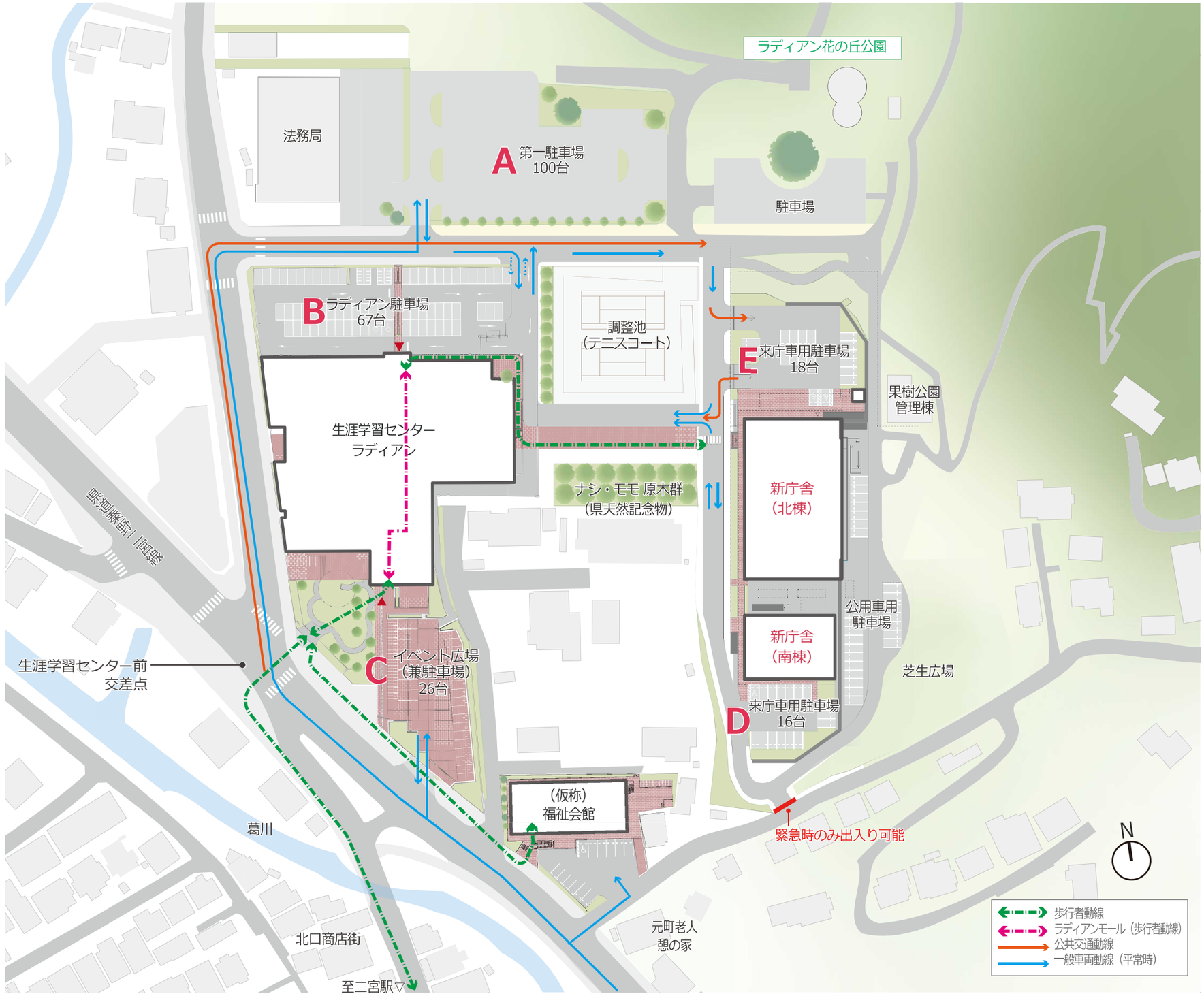
A,B,C,D,Eの駐車場は一体管理・運用とし、計画します。

キャッシュレス決済の導入や、駐車場の空き状況把握をスマートフォンにて閲覧可能にするなど、利用者の利便性向上を図ります。

利用料金については、原則利用時間に応じた課金制とし、利用目的に応じて減免制度等を検討します。

駐車場台数一覧

A:第一駐車場	100台
B:ラディアン駐車場	67台
C:イベント広場(兼駐車場)	26台
D:新庁舎(南棟)駐車場	16台
E:新庁舎(北棟)駐車場	18台
合計	227台



役場庁舎基本設計（案）

■基本方針について

二宮町役場新庁舎建設基本構想（令和２年２月策定）に基づき、
基本理念と５つの基本的な考え方をもって、
新庁舎基本計画（令和４年２月策定）にて整理し、
今回の基本設計としてまとめました。

基本理念：
町民の安全と安心を守り、町民が利用しやすい「まちづくりの拠点」

基本的な考え方

①町民の安全・安心な暮らしを支える拠点となる庁舎

新庁舎は耐震性能、防火性能に加え、自立性や指令中枢機能を備えた防災、
災害時の拠点として、町民の安全、安心を守る役割を十分果たせる庁舎とします。

②町民が親しみ、利用しやすい開かれた庁舎

新庁舎は、町民サービスの向上を重視した機能を充実させるとともに、
年齢や障がいの有無などにかかわらず、誰もが利用しやすい
ユニバーサルデザインを反映した計画とします。

③行政サービスの向上を目指した多機能な庁舎

分散しているこども家庭センターや教育委員会等の行政機能を集約し、
町民の利便性を向上させるとともに、円滑な対応や細かなサービスを
提供する庁舎とします。

④高度情報化社会へ対応した機能性の高い庁舎

高度情報化社会に対応できるよう、ネットワーク設備の充実化を図るとともに、
ペーパーレスを前提とし、業務の効率化とコスト削減を図る庁舎とします。

⑤環境に配慮した経済性に優れた庁舎

自然採光、自然通風など自然エネルギーの有効活用を図るとともに、
ZEB Readyを目指した省エネルギーな環境配慮型の庁舎とします。
一方でメンテナンス性や費用対効果に十分配慮した構造や設備とし、
ライフサイクルコストを重視した計画とします。

■外観デザイン

二宮のまちに根差す“質実剛健”な庁舎

―― 無駄を省きながら、自然環境と調和する開かれた庁舎をつくる――

構造が活きるアウトフレーム

・構造合理性を追求したシンプルなデザイン
・構造が外装となるローコストな計画
・構造のメリハリをつくり、開放感のある庁舎

環境性能を高めるルーバー柱

・西日を抑制するルーバー柱
・海からの風を内部に取り込むウインドキャッチ
・構造フレームがルーバーとなる経済設計

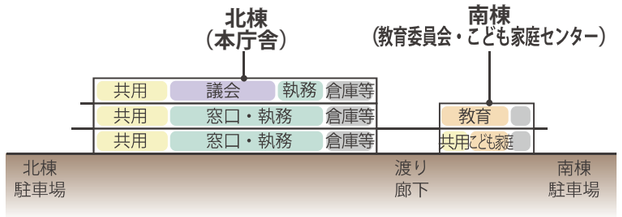
周辺と調和する外観

・構造の素材感をそのまま魅せる外観
・周辺の緑と調和するRC素材
・ボリュームを分節するグリットデザイン

■新庁舎配置計画

◇庁舎配置計画の考え方

・新庁舎の敷地は、現在の二宮果樹公園の用地を神奈川県から取得し、老木化した、果樹畑の場所に建設します。役場庁舎機能、教育委員会・こども家庭センターの一部機能を集約した施設とします。
・来庁者動線や機能性を考慮し、建物を北棟、南棟の2棟にわけて計画します。
・本庁舎を北棟、教育委員会・こども家庭センターを南棟に配置した計画とします。
・2棟を庇でつなぐことで、分棟ながらも一体感のある計画とします。
・南北側に来庁車用駐車場を計画し、東側に公用車用駐車場を計画することで、だれもが利用しやすい駐車場計画とします。



◇敷地概要

敷地所在地	神奈川県中郡二宮町二宮 1199- 1
用途地域	第1種住居地域
防火地域	準防火地域
敷地面積	10,000㎡ 程度
建ぺい率	60%
容積率	200%

◇施設概要

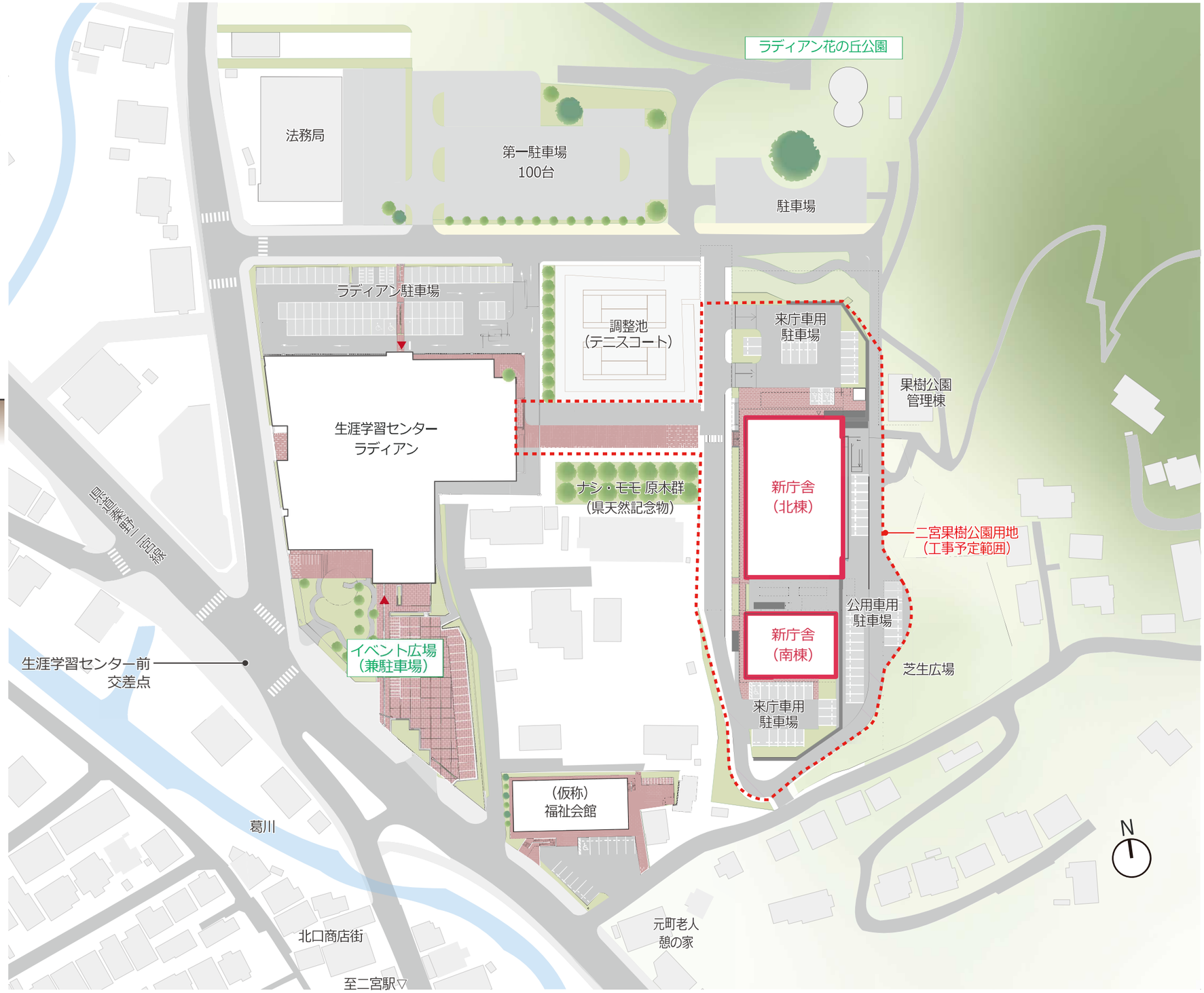
「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準」より、
北棟をⅠ類A類甲類、南棟をⅡ類B類乙類とします。

【北棟】

建築面積	1,690㎡
延べ面積	3,650㎡ (1階 1,240㎡、2階 1,205㎡、3階 1,205㎡)
構造種別	鉄筋コンクリート造
階数	地上3階

【南棟】

建築面積	540㎡
延べ面積	957㎡ (1階 478.5㎡、2階 478.5㎡)
構造種別	軽量鉄骨造
階数	地上2階



■平面計画１階

1階平面計画の考え方

・西側に待合、来庁者用の階段を計画し、来庁者の共用部を集約することで、ラディアンや駐車場からの利用者動線を受け止める計画とします。

・来庁者エリアと職員エリアを明確に分けることで、誰もが利用しやすい計画を実現するとともに、共用部を減らした効率的な計画とします。

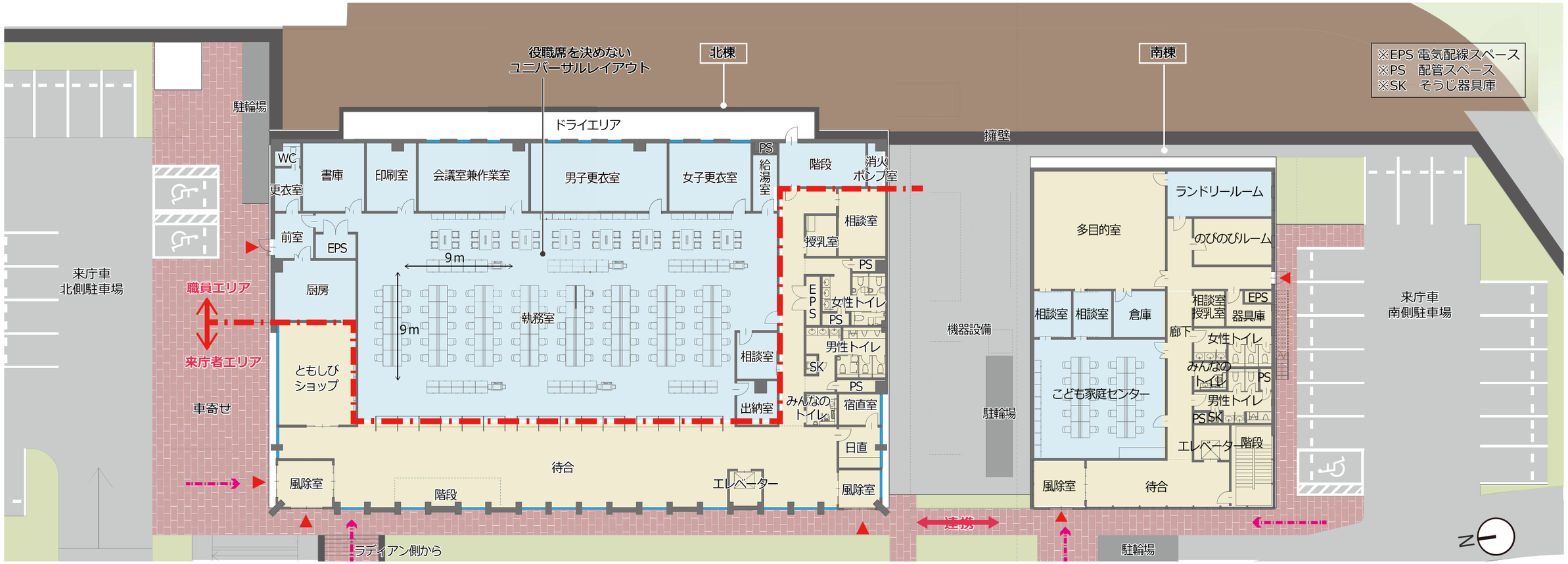
・9mグリッドの柱配置により、窓口を見渡すことのできる広々とした、わかりやすい計画とします。

・1階には来庁者の多い窓口を配置するとともに、南棟との連携が必要となる窓口を設置することで、来庁者・職員共に利用しやすい機能的な計画とします。

・執務室はユニバーサルレイアウトを採用し、将来の組織改編に柔軟に対応ができる計画とすることでランニングコストにも配慮した計画とします。

※ユニバーサルレイアウト:役職席を決めず机を横一列にする配置計画。

1階待合スペース



1階平面図 S=1/300

■平面計画２階

2階平面計画の考え方

・2階は主に行政窓口を設置するとともに、災害対策機能を集約配置することで災害時に迅速な対応・連携のしやすい計画とします。

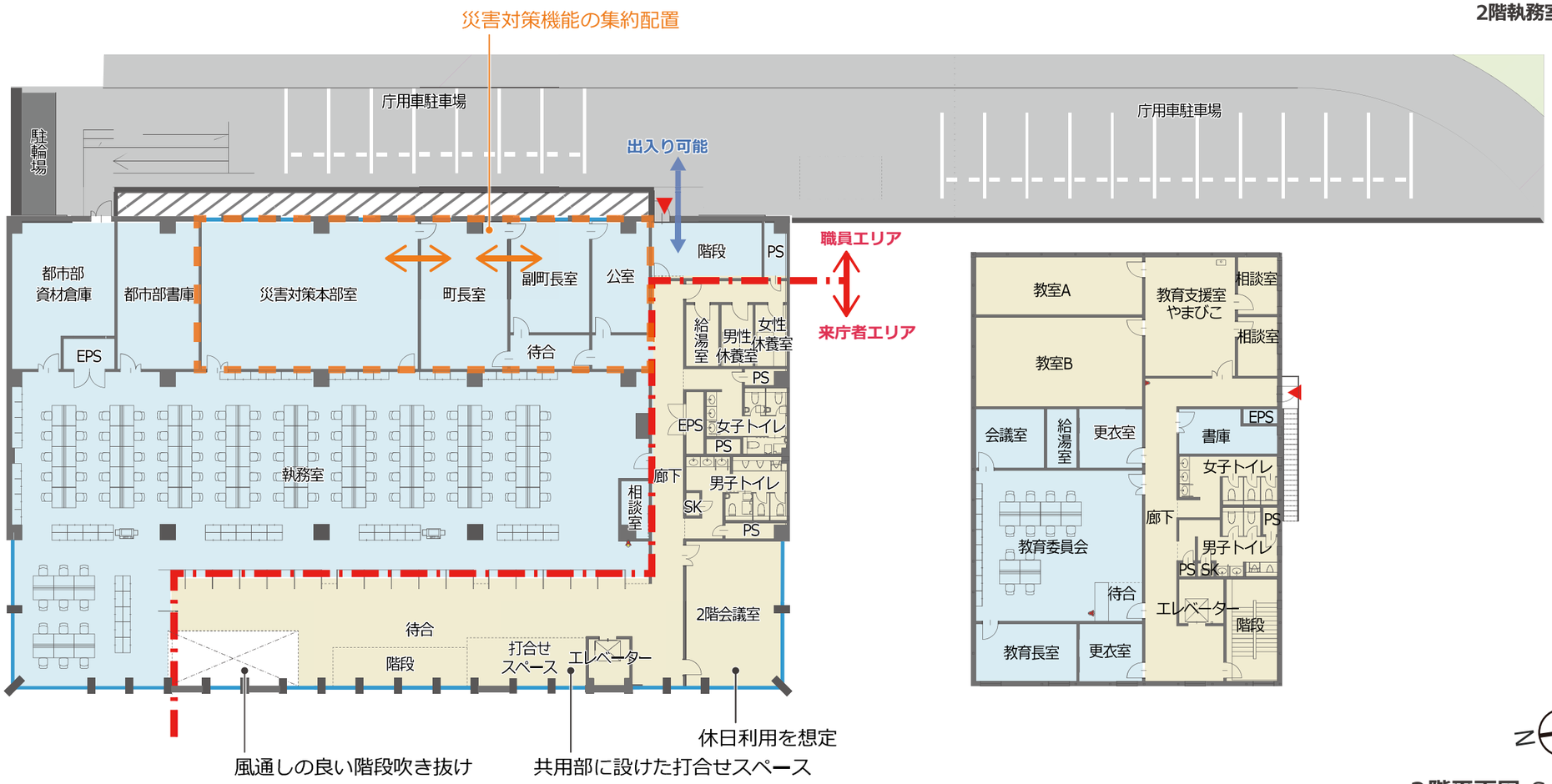
・1階同様に職員エリアと来庁者エリアを明確に分け、使いやすい計画とします。

・来庁者と職員の打合せスペースを待合スペースに設けることで、共用部を有効利用した計画とします。

・2階会議室は休日利用を考慮したセキュリティ計画としており、地域に開かれた開放的な会議室として計画します。

・敷地内のレベル差を活かし、東側地上から直接出入りが可能なバック動線を設けた計画とします。

2階執務室スペース

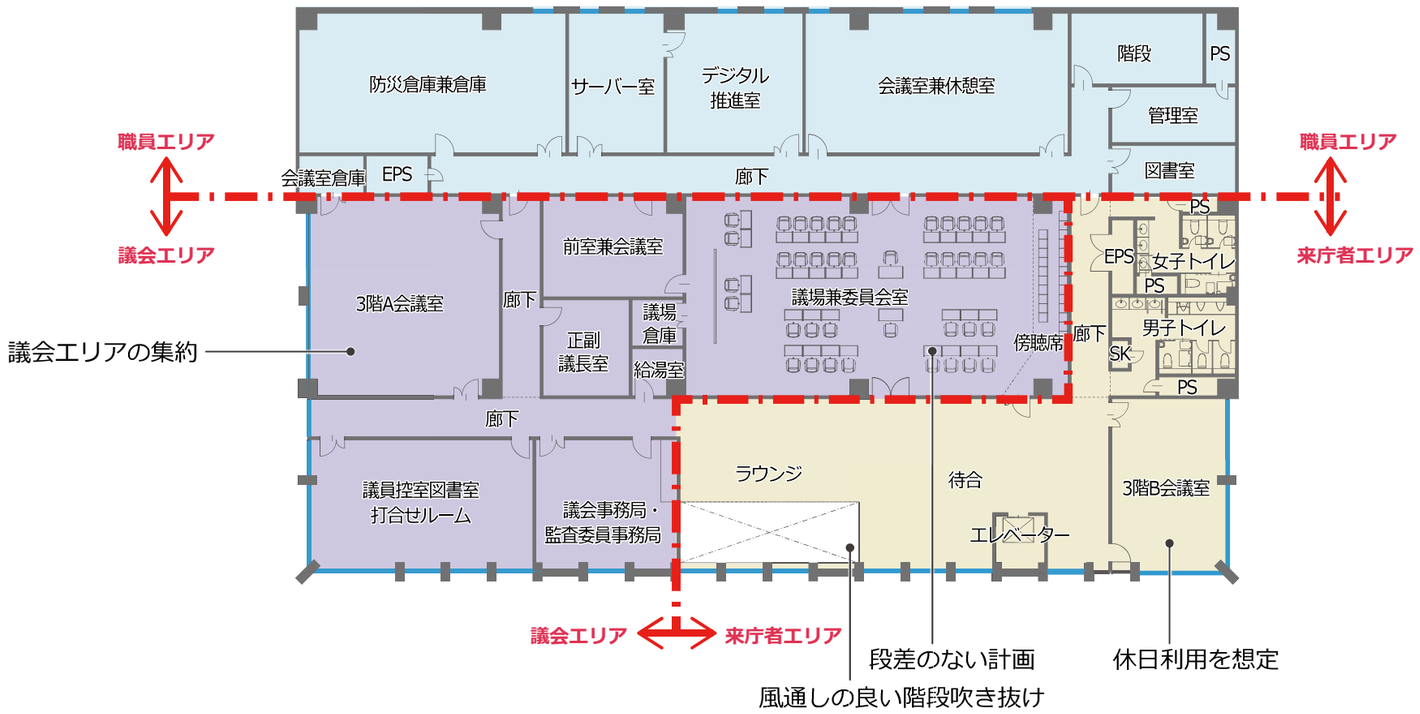


2階平面図 S=1/300

■平面計画３階

3階平面計画の考え方

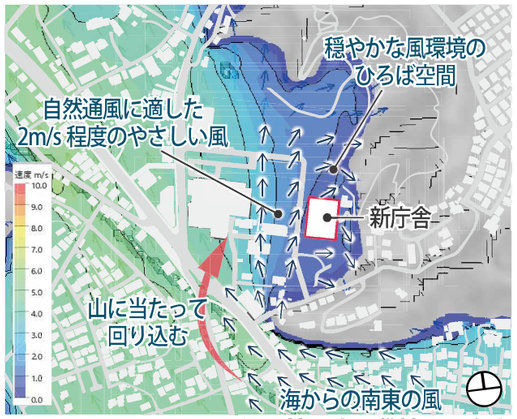
・主に議会エリアとし、機能を限定することで管理のしやすい計画とします。
・議会運営用の音響や映像システムを効率良く活用するため、議場と委員会室を兼ねた計画とします。
・議場は段差のない計画とすることで、災害時等において議会以外の利用も見込める計画とします。
・議場はハイサイドライトを設けた計画とし、明るく風通しのよい計画とします。
・議会見学スペースや待合を西側に配置し、ラディアン地区からみた新庁舎の外観に議会活動が垣間見える計画とします。
　※ハイサイドライト：壁面の高い位置に取り付けた窓。



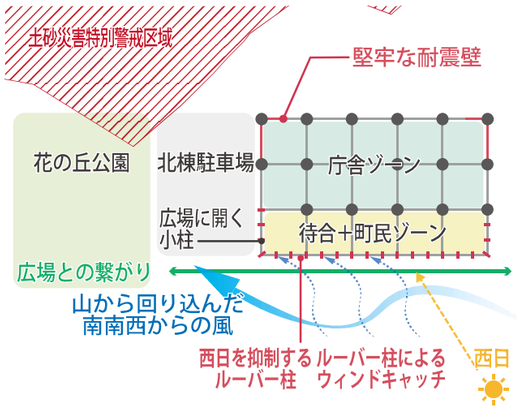
3階平面図 S=1/300

■周辺敷地の風土を活用した環境計画

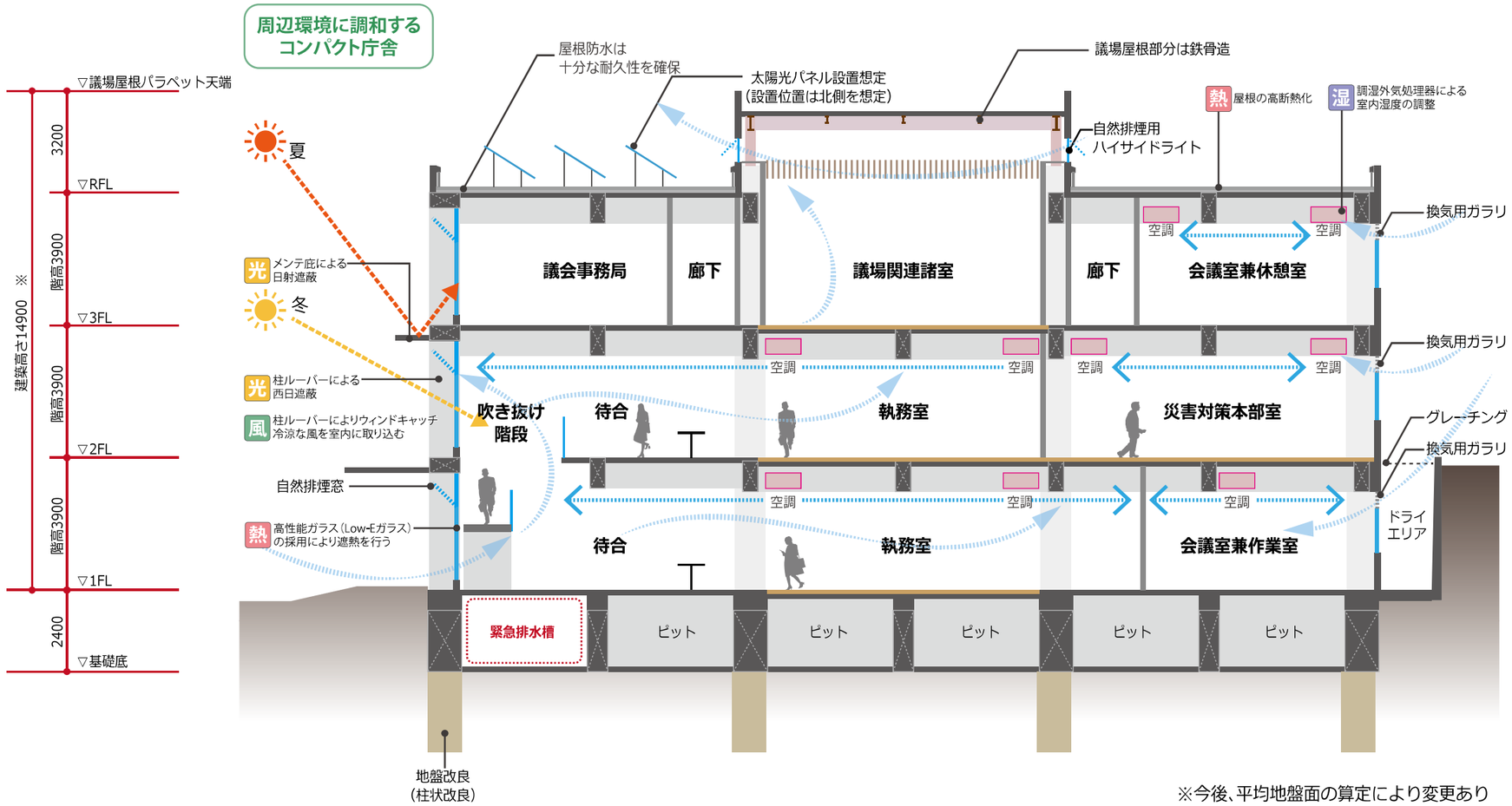
・自然の地形が生み出した涼やかな風を、構造フレームを活かしたRC細柱列柱でウインドキャッチすることで、自然通風を促進するパッシブデザインとします。
・西面は構造躯体を活用した柱ルーバーによって、西日の抑制を行い、日射負荷を低減します。
・階高を抑えることで、コストを抑制するとともに、背後の山の景観に調和する計画とします。
・共用部に設けられた直通階段による吹き抜けによって、風の通り道をつくり、機械に頼らない自然換気を促進します。
・執務室や倉庫等を天井レスとし、コストを抑制すると共に執務室内を広がりのある計画とします。
・高効率な省エネルギー設備(照明や空調機等)を採用することで、環境負荷とランニングコストの低減を図り、ZEB Readyの取得を目指します。
・調湿外気処理器を採用することで、配管レスかつ各階換気によるダクト縮減を図るとともに、湿度の細やかな管理により温度を大幅に下げることなく、室内の快適性を高めます。
※ZEB Ready: 環境省の定める従来の建物で必要なエネルギーを50%以下まで削減したスマートビル



周辺環境による敷地の風向き



周辺を取り込んだ環境計画



※今後、平均地盤面の算定により変更あり

■各設備計画概要

◇電気設備計画概要

受変電設備(想定)
(※1)

受電方式:普通高圧6.6kV 1回線受電
設備容量:変圧器三相三線式　100kVA×3台
変圧器単相三線式　500kVA×１台
変圧器スコット　(※2)　100kVA×１台
場所:屋外キュービクル置場(※3)

非常電源設備(※4)

7,000ℓ(停電時:72時間対応)
方式:交流発電機、内燃機関(ディーゼルエンジン発電機)
対象負荷:消防負荷、保安用負荷及び災害応急対策活動を行うのに必要な負荷

太陽光発電(想定)

北棟 24kW相当、南棟 22kW相当

照明設備

LED照明器具
人感センサー及び昼光制御センサー制御

※1 高圧の電気を実際に使用できる電圧に交換する設備。
※2 変圧器スコット→三相三電源式から単相三電源式に変圧する機器。
※3 キュービクル→受変電設備を収納するボックス。
※4 非常電源設備→火災等の災害時に消防用設備などが正常に作動できるように設置する電源。

◇空調設備計画概要

空 調 設 備

熱源　:電気式空冷ヒートポンプチラー(※5)
空調方式:潜熱顕熱分離空調(※6)一部電気式空冷ヒートポンプパッケージ方式
換気設備:第一種換気(※7)(一般諸室)
第二種換気(※8)(一般諸室)
第三種換気(※9)(機械室、倉庫、トイレ、給湯室等)

排煙設備

自然排煙方式(※10)

中央監視

BEMS:ビルエネルギーマネジメントシステム(※11)
設備監視:受変電設備、非常用電源、空調・衛生設備機器の監視・制御・計測・計量・印字・警報(3階管理室)
防災管理:自動火災報知設備、防排煙連動制御設備、消火設備、非常通報設備の監視及び操作(3階管理室)

◇衛生設備計画概要

給水設備

上水系統:受水槽＋加圧給水、雑用水系統:雑用水槽＋加圧給水
断水時バックアップ:72時間対応分(上水10㎥、雑排水23㎥)

給湯設備

個別給湯(貯湯式電気温水器)、瞬間式ガス給湯器

排水設備

屋内:汚水・雑排水合流方式
屋外:汚水・雨水分流方式

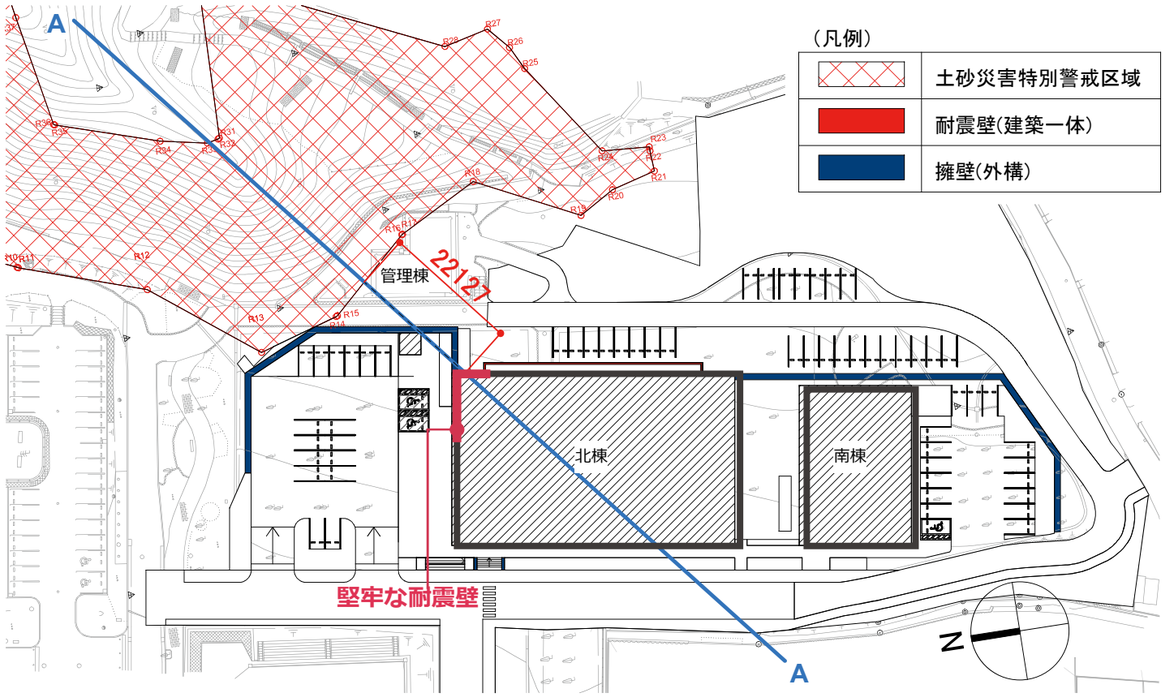
消火設備

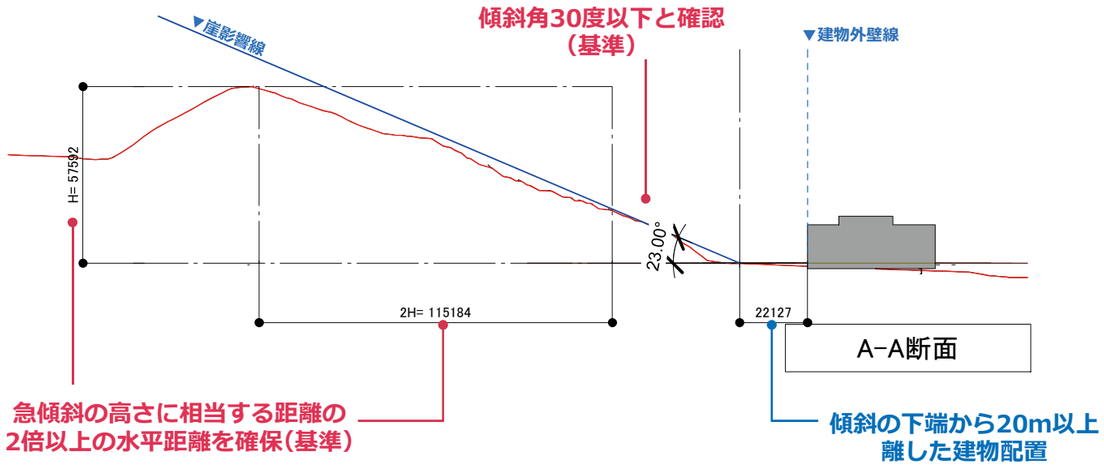
屋内消火栓設備、消火器

※5 電気式空冷ヒートポンプチラー→外気を利用して装置を冷やすことで温度調節を行う仕組み。
※6 潜熱顕熱分離空調
→温度と湿度を別々にコントロールすることで、適温適湿で快適な空間を作り、かつ省エネルギーな空調システム。
※7 第一種換気→給気・排気とも機械を利用。
※8 第二種換気→給気のみ機械を利用、排気については自然排気。(室内を清潔に保つ必要のある部屋等)
※9 第三種換気→排気のみ機械を利用、給気については自然給気。
(トイレ、キッチンなどのニオイ等を強制的に排出する諸室等。)
※10 自然排煙方式→火災時に発生する煙を排出する際に煙の浮力を利用した排煙方式。
電源などの動力源が不要なため、停電時にも機能を停止せず利用可能。
※11 BEMS:ビルエネルギーマネジメントシステム
→建物内で使用される電力使用量を把握するための管理システム。
使用量の見える化と、効率のよい利用により、無理のない省エネが実現可能。

■土砂災害特別警戒区域の対応

・庁舎敷地は土砂災害特別警戒区域の範囲外と確認がとれています。
・計画建物が神奈川県建築基準条例 第2条の2(災害危険区域の指定)において指定される区域の崖影響範囲外である旨の確認を行います。
※崖地の傾斜について、国交省国土地理院地図の３Dデータを用い確認を行います。

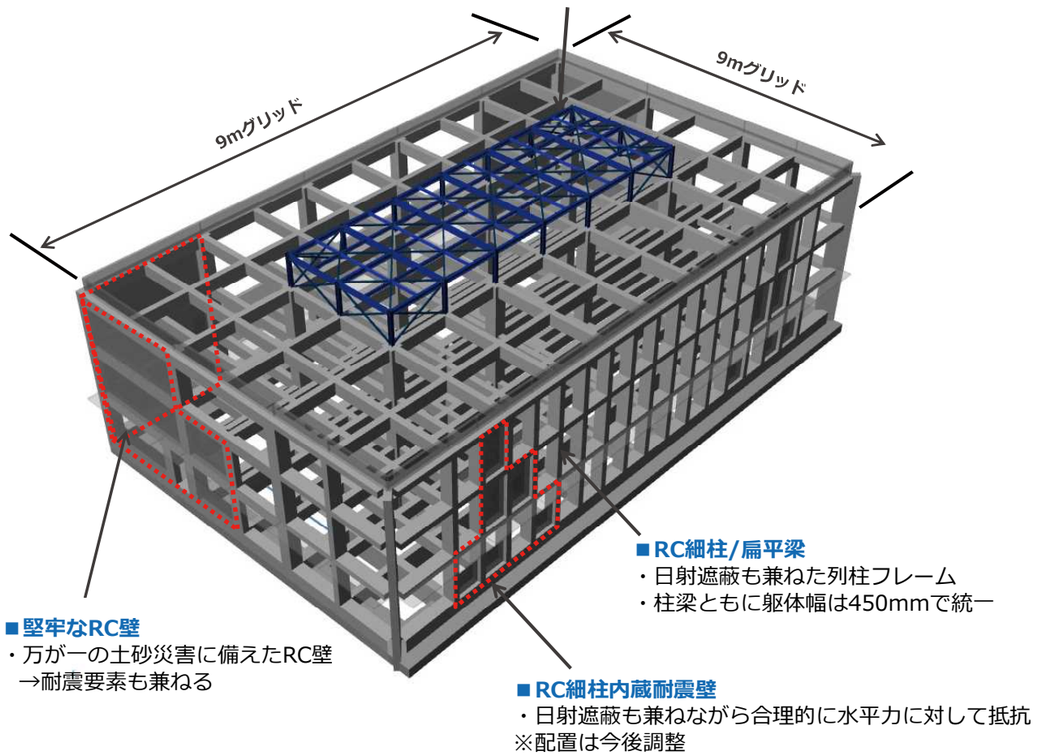




■構造計画概要

・構造種別は「鉄筋コンクリート造：耐震Ⅰ類庁舎(一般建物の1.5倍の耐震性)」、架構形式は「耐震壁付きラーメン架構」とします。
・9m×9mグリッドの内部空間には、耐震壁は設けず、建物の将来対応を見据えた自由度の高い空間を構築します。
・建物は斜面から離れた位置に計画していますが、万が一の土砂災害に備えて斜面に近い北東側には堅牢なRC壁を設けます。
・西側は日射遮蔽も兼ねた「RC細柱列柱」に部分的に耐震壁を設けることで、地震力等の水平力に対しても合理的に抵抗できるフレームとします。
・最上階の議場屋根は鉄骨フレームで構成し、軽量化を図ることで地震力の低減や基礎への負担を軽減した計画とします。

庁舎（**耐震構造**）
構造種別：鉄筋コンクリート造
架構形式：耐震壁付きラーメン架構



■地盤概要

（1）地盤の特徴

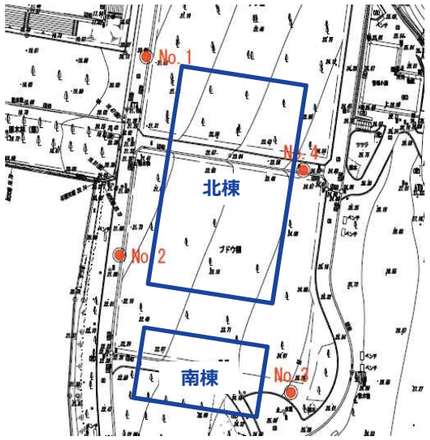
・土層は表層からN値の小さい埋土層と粘土層があり、その下層にN値20以上の砂質土層があります。
さらに下層にN値50以上の凝灰岩があります。

・N値50以上の凝灰岩は東側から西側に向かって深くなり、最大で20m程度の高低差があります。

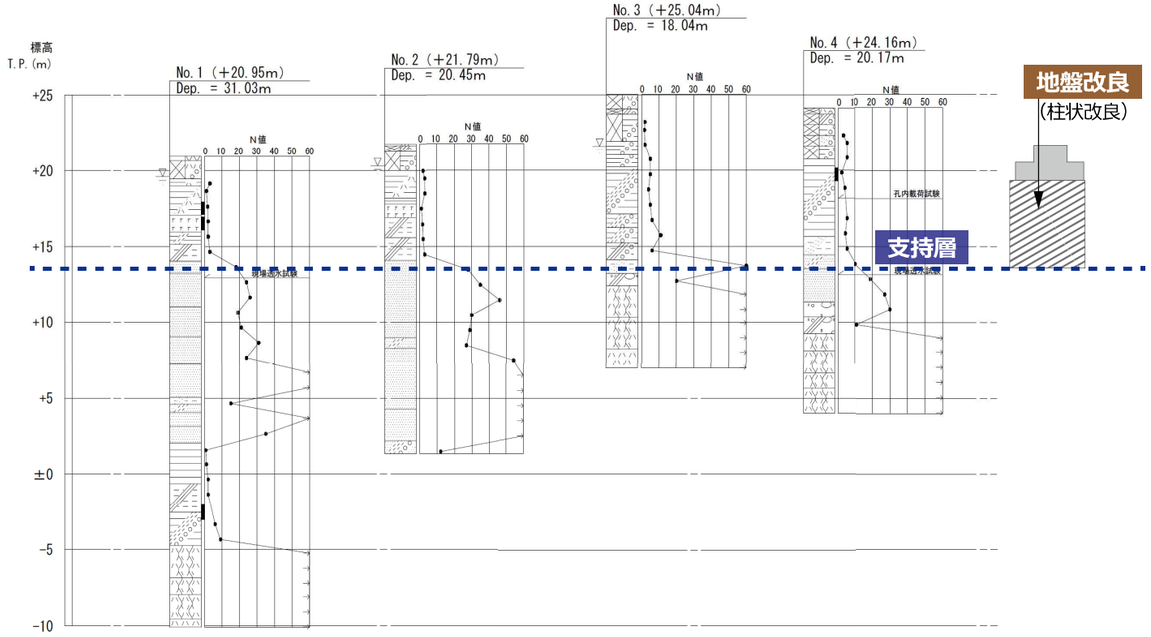
（2）基礎形式の想定

・建物規模に適した地耐力が確保可能で、現場での管理もしやすいTP.+13.5m付近（深度管理）の砂質土層または凝灰岩を支持層とした『地盤改良併用直接基礎』とします。

※TP:Tokyo-wan peil 東京湾平均海面のこと。



地盤調査位置図



（3）液状化の可能性について

・表層から3mの細砂層に自然水位がありますが、N値20以上の比較的硬質な地盤が連続するため地震時の液状化の可能性は低いと考えられます。『e-かなマップ』において、「液状化対象外」とされています。

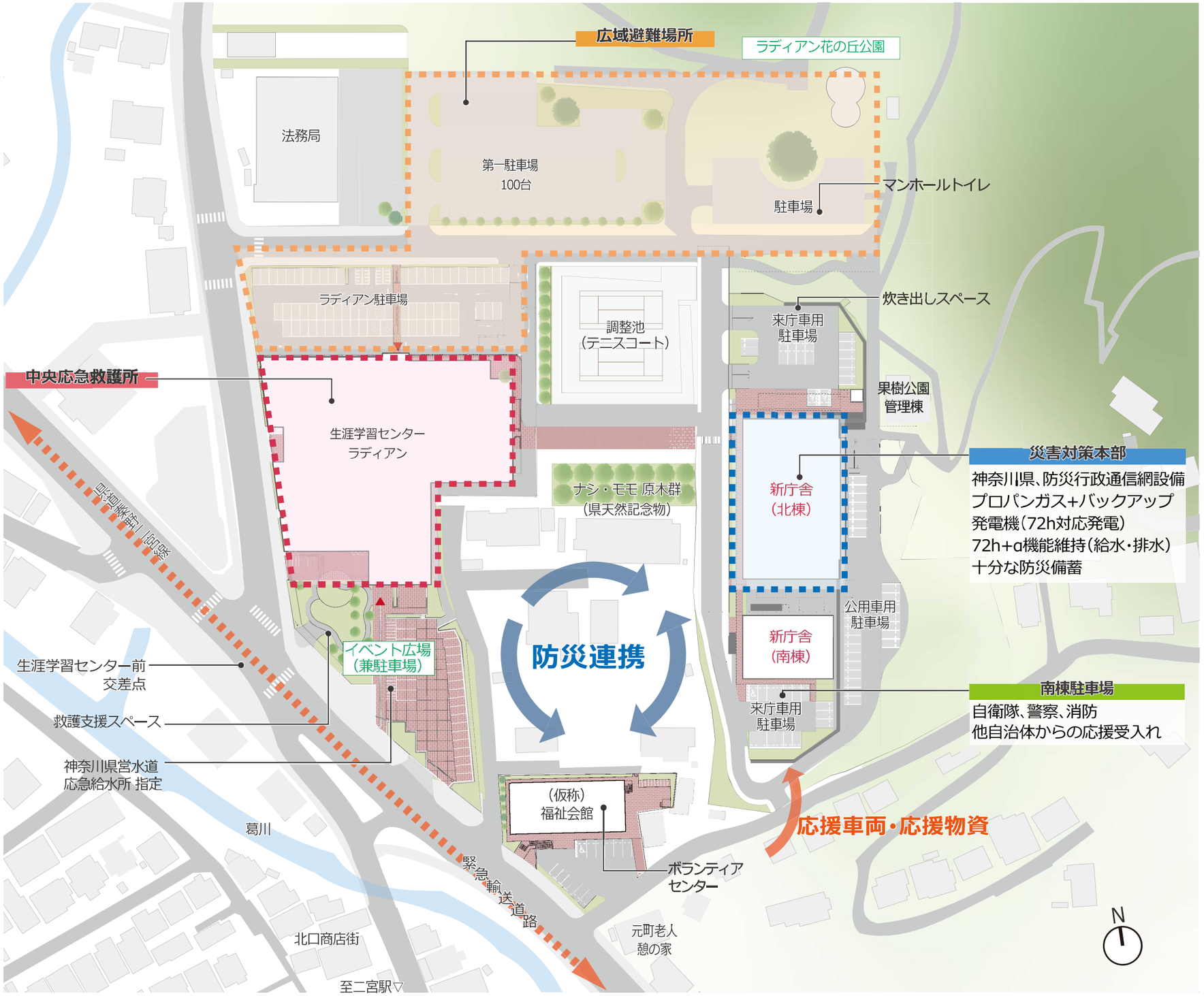
液状化想定図（e-かなマップ：大正型関東地震）

■ラディアン周辺における災害時の役割と連携

ラディアン周辺地区の災害時機能転換

・新庁舎は災害発生後72時間外部からの支援が無くとも活動のできる発電機設備や緊急排水槽を設けるとともに、飲料水、雑用水を確保した機能維持可能な庁舎とします。
・新庁舎は「災害対策本部」を設置し被災状況を的確に把握し、災害情報を収集・発信します。また、防災組織や関係機関と速やかに連絡を取り、応援要請や連携を図ります。
・生涯学習センターラディアンは「中央応急救護所」となり、応急医療を行います。ラディアン及び第一駐車場、花の丘公園、庁舎一体は「広域避難場所」となります。
・新庁舎南棟の駐車場は、緊急輸送道路である県道秦野二宮線とのアクセスが良いことから、応援車両及び応援物資の受け入れ場所として機能します。
・（仮称）福祉会館はボランティアセンターとして復興に向けて機能します。

各施設が連携し、災害時活動や情報発信、町民ケアを行うことで、ラディアン地区一体が、町民にとって安心できる防災拠点として機能します。



生涯学習センター　リニューアル基本設計（案）

■生涯学習センターリニューアル　テーマ・コンセプト

生涯学習センターとしての課題

・施設の有効利用が図られていない
・図書館の利用者数が減少している
・図書館やホールを目的とした利用者以外が足を運ばない
・滞在、閲覧スペースが少ない
・飲食スペースが少ない
・学生の学習スペースが少ない
・展示ギャラリーの未利用期間がある

Theme:『 町民が集い・憩う。みんなの居場所となる公園のような施設づくり 』

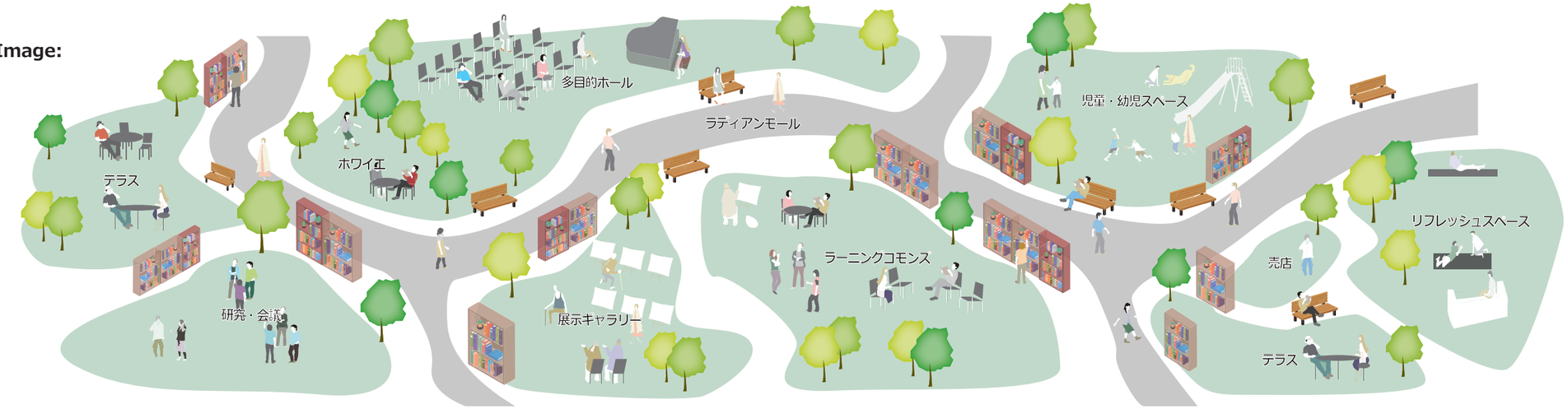
生涯学習センターは、図書館とホールなどの複合施設であり、**町民の生活や交流の拠点として、「ラディアン」の愛称で多くの町民に親しまれている施設**です。
特に図書館は多くの蔵書を備え、人々が様々な情報を求めて訪れる**「人と本（情報）が繋がる場所」**として利用されてきました。

しかし、近年ではデジタル化も進み、図書館に求められる役割は変化しつつあり、
また、図書館を含む生涯学習センターを、より多くの町民が安心して集い、気軽に利用することができるよう、**これからの時代を見据えた環境に整えていく必要があります。**

そこで、本計画では、老朽化した箇所の改修にあわせて、時代の垣根や境界を取り除き、**誰もが自由に過ごし、繋がり、集まる1つの公園**をイメージした整備をすることで、
新たな「人と本」の繋がりに加え、「人と人」「人と活動」「人と暮らし」「人と施設」を繋ぐ、『人』が中心の新たな交流拠点づくりを行います。

Concept:『　ONE PARK　』

Image:



■ 新たな図書館構成のデザイン

“人”と“本”をつなぐ

・施設全体を図書館として設える
・ICタグの導入による本の自由な持出
・通り抜け空間に溢れ出す本棚
・遊具のような本棚新設（児童・幼児）

■ 機能のデザイン

“人”と“活動”をつなぐ

・様々な活動単位に応じたスペースづくり
・展示空間、発表の場の提供
・コワーク、ラーニングコモンズの設置
・飲食も可能なリフレッシュ空間の構築

■ 防災のデザイン

“人”と“暮らし”をつなぐ

・災害への備え（転倒防止）
・中央応急救護所としての機能
・災害対策拠点（庁舎）との連携

■ 使いやすさのデザイン

“人”と“施設”をつなぐ

・複合施設から混合施設へ
　-ホールと図書館の垣根を外す-
・目的に合った明快なゾーニング計画
・わかりやすいサイン計画
・安全な外構計画

■ 居場所のデザイン

“人”と“人”をつなぐ

・施設全体に拡張する
　本を読める居場所づくり
・自然と触れ合う広場
・屋外テラス（閲覧スペース）の開放

■リニューアルイメージパース

『活動と本の溢れる公園の中の散策路』

周辺施設とも繋がる動線の骨格「ラディアンモール」は、本と活動の溢れるモール空間として整備します。
公園の中を散策するように様々な活動や本と出逢える空間として演出します。

『親子で集う学びの舞台』

段床形式の開架書架とし、座って本を読むこともできるスペースとして整備します。
親子で一緒に本を読むなど、様々な形で本と繋がることのできる学びの舞台として演出します。

『木漏れ日の落ちる子どもの学び空間』

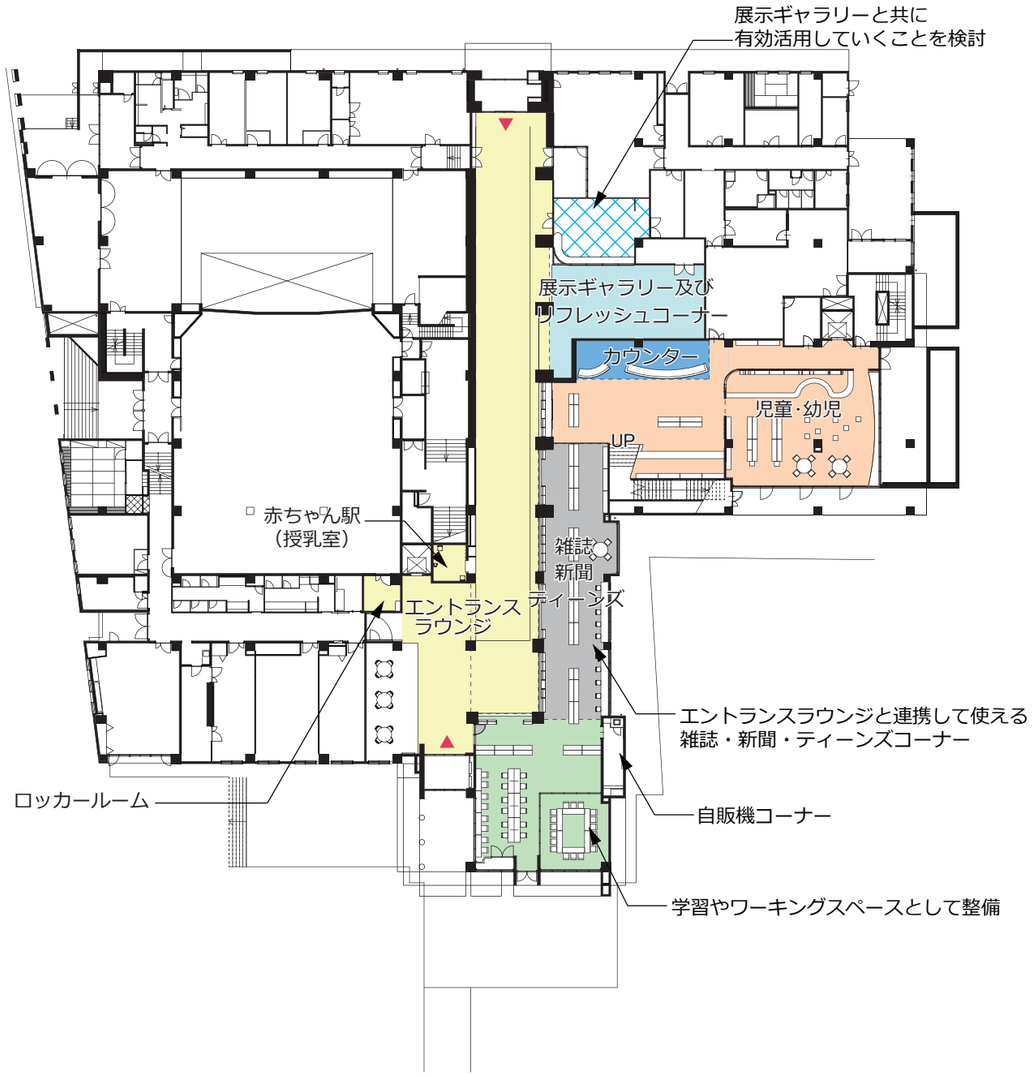
児童と幼児の書架スペースは、吸音パネルを兼ねた大木の葉や書架を兼ねた壁により、
他のフロアへの声の響きを和らげ、子ども達が大木の下で自由に本を読み、
また、靴を脱いで座ったり、寝転んだりしながら、ゆったりした空間の中で新たな発見をする場として演出します。

『様々な本・資料と向き合うコワーキングスペース』

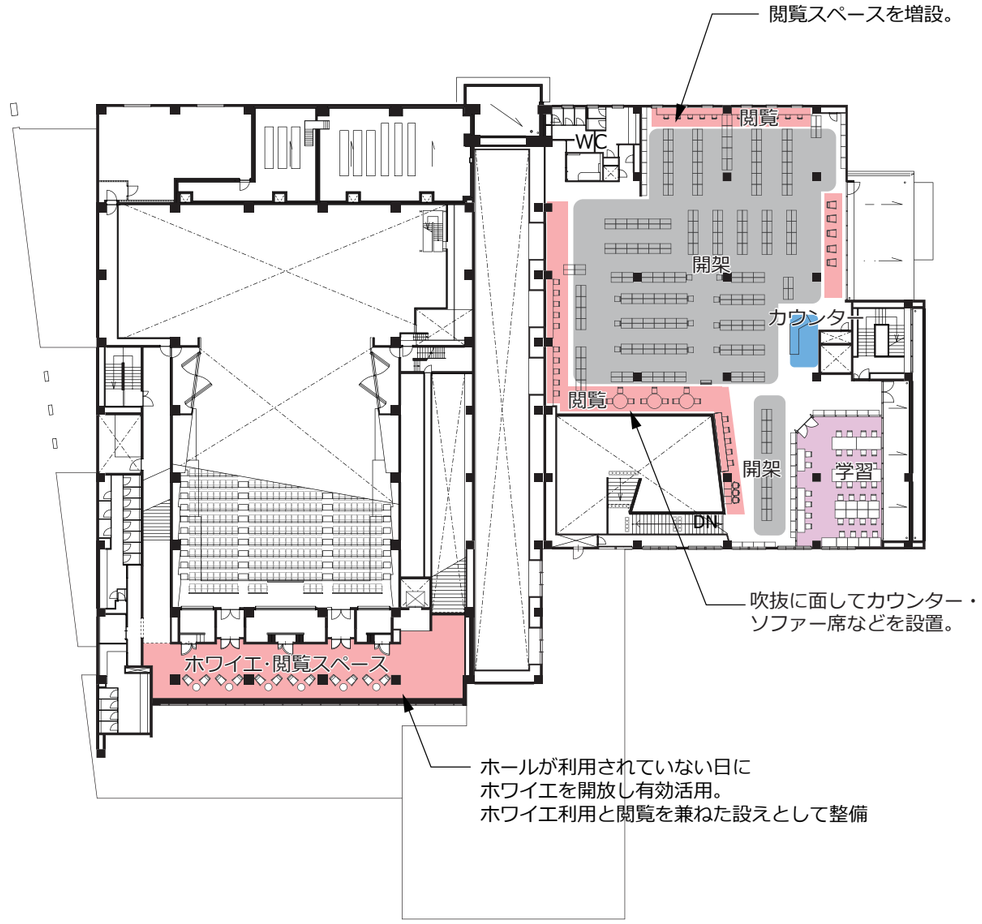
誰もが集中して本や資料と向き合うコワーキングスペース。
仕切りのあるデスクやガラスパーテーションに囲まれた部屋を選択し、勉強や仕事と向き合う集中スペースとして整備します。

■内部計画の考え方

本のICタグ採用を受け、施設メイン出入口風除室部分にBDSを設置することで、施設全体を図書館スペースとして有効活用する計画。
ラディアンモール全体をエントランス・ラウンジ空間として計画し本棚を配置していくことで、利用者と本の出会いのきっかけを創り出し、好きな本を様々なスペースで閲覧することのできる計画。



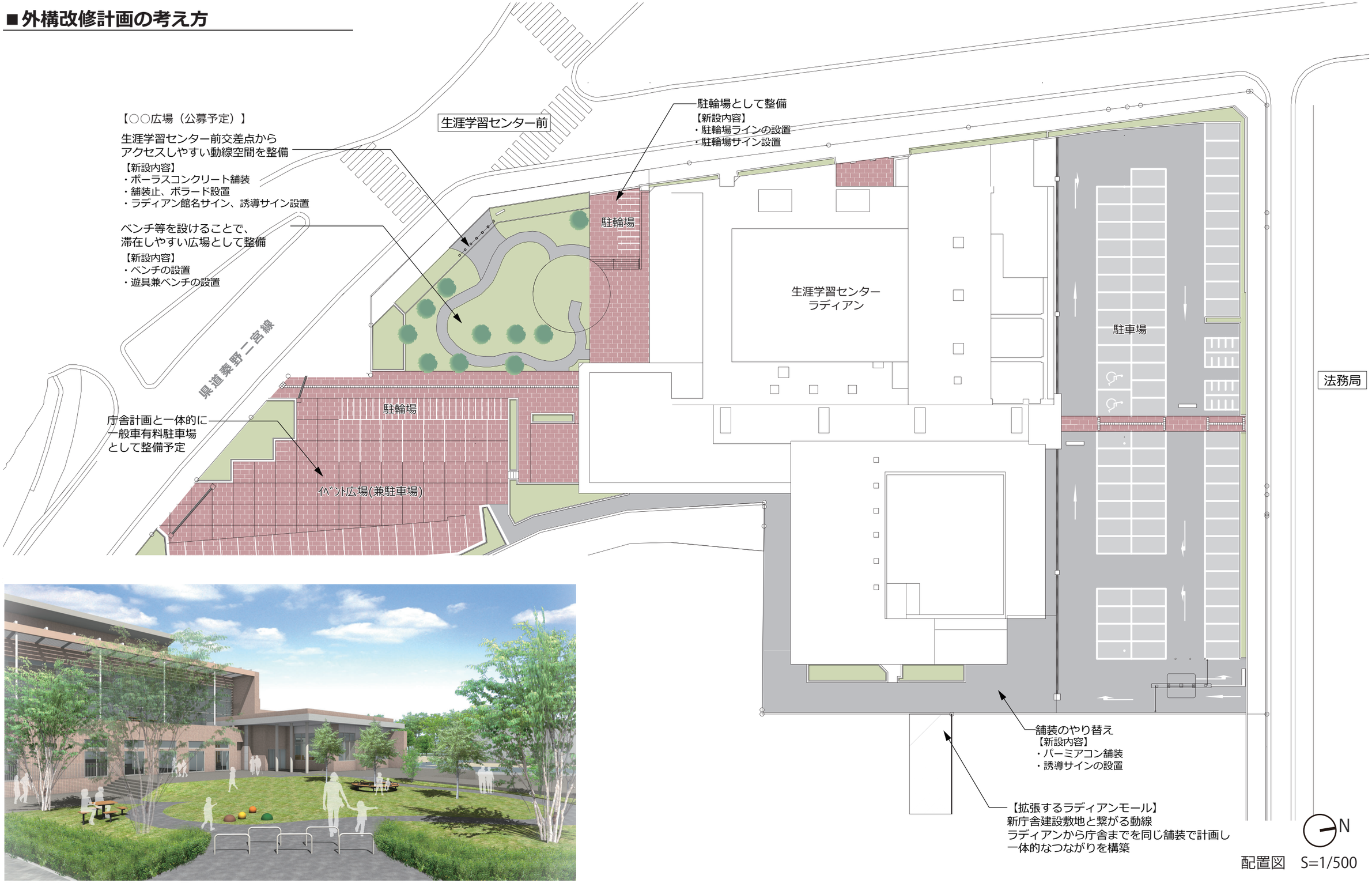
1F平面　S=1/500



2F平面　S=1/500

	エントランス・ラウンジスペース		児童・幼児スペース		学習スペース	▲	図書館入口（BDSの設置箇所想定） ※BDS:ブックディテクションシステム →図書館のセキュリティシステム
	開架スペース		カウンタースペース		学習・多目的・コワーキングスペース		
	閲覧スペース		リフレッシュスペース		将来的に有効活用していくことを検討		

■外構改修計画の考え方



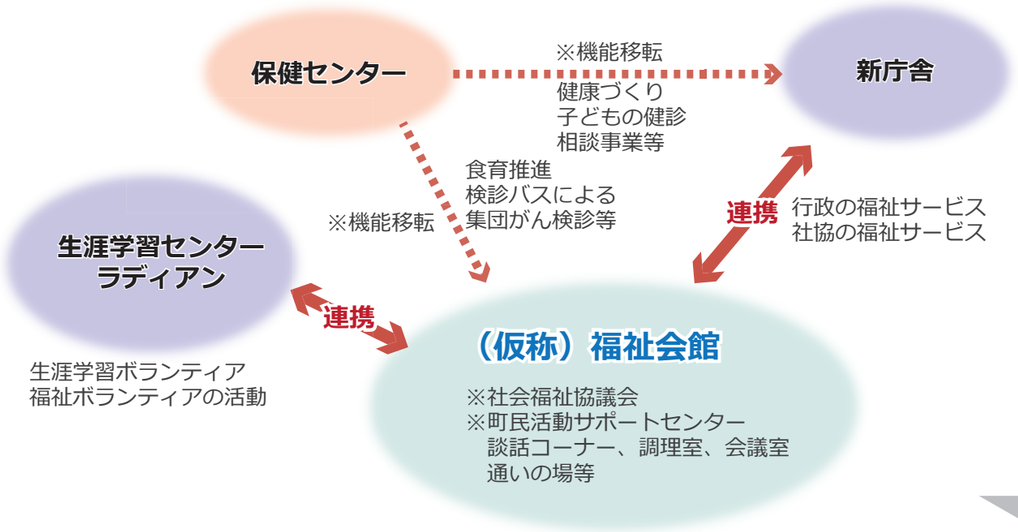
配置図　S=1/500

『自然と戯れる○○広場』　生涯学習センター前の交差点からアクセスしやすい動線空間を確保することで、誰もが自由に自然と繋がる広場空間として計画します。

（仮称）福祉会館基本設計（案）

■（仮称）福祉会館　テーマ・コンセプト

1.（仮称）福祉会館の役割



（仮称）福祉会館の目的

・町民福祉とともに、健康増進や食育推進を高める場

・福祉団体ボランティア等の”町民活動の発展を図る拠点”

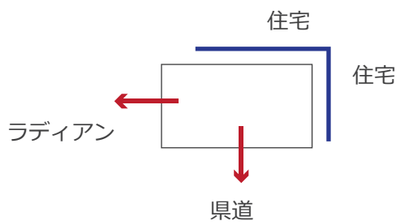
・社協と行政の福祉サービスをつなぐ連携の場

設計コンセプト・テーマ

町民のだれもが気軽に集い、人と人とのつながりが強まる場所。

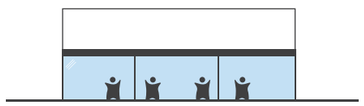
2. 外観計画のポイント

①周辺環境に配慮したボリューム



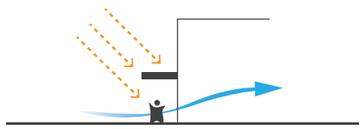
県道、ラディアン、住宅と異なる周辺環境を受け入れる計画とします。

②人の活動をみせるガラスの立面



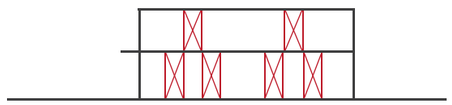
低層部の立面をガラスとし、
町民の活動が外観に現れる計画とし、
町ににぎわいを広げていきます。

③人や自然を受け入れる庇



建物の正面に庇を設けることで、
人や風が入り込む計画とします。
日射抑制しながら、
居心地の良いあたたかい空間つくります。

④災害についての配慮



浸水対策として、フロアレベルを上げた計画とします。
軽量鉄骨造とブレースの採用により、コストを抑えながらも安全性に配慮した計画とします。

⑤外壁についての配慮

塩害対策とし、さびにくくメンテナンス性に優れた外壁素材を選定します。
また、隣接するラディアンに対応した色調、自然になじむ色彩計画とします。

■内観・外観イメージ

ラディアン側(南西側)からみた外観計画
ラディアンと県道に対し開いた、外観計画とします。
庇を設けることで、日射の抑制を図りながら暖かい日が差し込み、風の通り抜けのしやすい、
居心地の良い空間とします。

県道(南側)からみた外観計画
1階はまちに開き、活動を見せる外観計画とします。
直射日光の入る2階は、開口率をさげた計画とし、室内の快適性を重視した計画とします。

エントランス・ラウンジ
施設全体のエントランスとして町民を受け入れる場であるとともに、受付の待合・福祉団体ボランティアの打ち合わせスペースとします。交流が生まれ、活動を活発化できるようなあたたかみのある空間づくりを行います。

鳥瞰からみた外観計画
周辺住宅に配慮したコンパクトな建物とし、周辺に調和する外観計画とします。

■計画の考え方について

前提条件

・軽量鉄骨２階建て、915㎡程度とします。

・屋内階段1つ、屋外階段1つとして計画します。

・廊下幅は1600mm以上とし、誰もが利用しやすい計画とします。

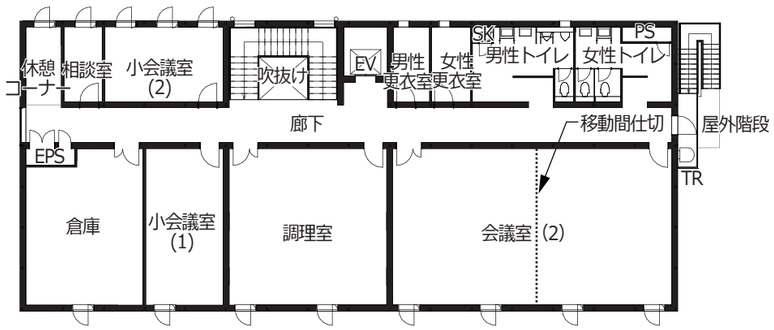
システム建築条件

・基本的には2mグリッドで柱を配置します。

【凡例】

	緑化計画地
	歩道（カラーアスファルト）
	駐車場（アスファルト）
	駐輪スペース（コンクリート舗装）

（仮称）福祉会館外構計画+1階平面図 S=1/300



(仮称)福祉会館2階平面図 S=1/300

【諸室について】

- **ラウンジ:福祉団体ボランティアの打合せスペースとして利用**
  印刷室も併せて利用
- **各会議室:会議や通いの場、町民活動の場として利用**
- **相談室/親子相談室:福祉に関わる相談場所**
- **調理室:食育推進等の活動の場として利用**